

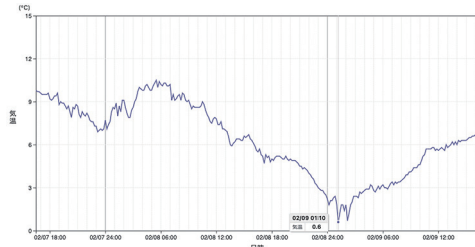
こっこめ通信 03 2026

「海の魅力」号



八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて「こっこめ」とよびます。

今シーズンも何度か寒気の南下がありました。2月8日から9日にかけて、天気予報でも雪マークが表示されるほどのかなり強い寒気の南下がありました。9日に日付が変わったあたりがピークで0.6℃まで気温が下がり、その時間帯は雪と小さな霰が降り、朝は地面が白くなっていました（右：気温グラフ）。残念ながら白くなっていたのは一時的で、直ぐに元の世界に戻ってしまいました。



さて、今回は「八丈学講座『クジラを探そう』」と「特別講演会『おじゃれ！深海の世界へ』」についてのお話です。

八丈学講座「クジラを探そう」

2月28日、中之郷地区の藍ヶ江漁港にて八丈学講座「クジラを探そう」を開催しました。この行事は2023年から始め、今回で4回目の開催となります。事前申し込みではなく、来た人みんなでザトウクジラを探して盛りあがろう！と企画しています。今年は、クジラの解説を聞いてくれた人、双眼鏡で一緒に探してくれた人、合わせて27名の参加がありました。

前日からの雨で一時はどうなるかと思いましたが、昼前に雨が止み、無事に開催することができました。風向きも北寄りの風になったおかげで比較的海も穏やかで、クジラを探すベストコンディションになりました。

今年は八丈島周辺に滞在するクジラの数が少ないと言われていましたが、1月末にホエールウォッチング船が末吉地区の海域で、ザトウクジラが出産したと思われる小さな個体を発見し、テレビでも紹介されていました。ザトウクジラの出産は、奄美大島や小笠原など、もう少し水温が高い海域とされていましたが、今回の映像から最北での出産確認となったようです。

さて、「クジラを探そう」がどうなったかというと、この日はクジラの気配が全く無く、ウォッチング船も観光協会が実施しているクジラバス（陸からクジラを見に行くツアー）も苦労していました。結局、終わり頃に、スタッフが双眼鏡でやっと見えるかなり沖で数回ブローを確認しましたが、参加者の中で確認できた方はいませんでした。あとでSNSの情報を確認した所、私たちが見ていた反対側の海域では少し見られたとのことでした。

それでも参加者は双眼鏡の使い方が知れ、ウミネコやウミウ、ミサゴなども観察できて喜んでいただけました。藍ヶ江漁港内に小さなアオウミガメが浮き上がり、見えないクジラより盛りあがる場面もありました（写真下）。

来年こそは、たくさんのザトウクジラに会えますように！（H.T.）



「アカコッコ」は日本固有のツグミ科の鳥で、国の天然記念物に指定されています。八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

特別講演会「おじゃれ！深海の世界へ」

2月28日、国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 地球環境部門の藤原義弘さんを講師に迎え、特別講演会「おじゃれ！深海の世界へ」を開催しました。

今回は、対象を小学生以上とし、開始時間を通常よりも早い18時からとしています。SNSでの発信や島内にポスターを掲示したところ、事前の問い合わせも多数ありました。どのくらいの来場があるのかとドキドキしていましたが、結果、用意したイスでは足りず、事務椅子を追加するほどの盛況でした。遅れてきた方や関係者はレクチャールームからはみ出しての聴講となっていました。最終的には96名（うち小学生14名）と、これまでの最多の来場者数となりました。



講演会の内容を少し紹介します。

【深海と深海生物】

何メートルからが深海になるのか？どのような場所なのか？深海はどんな環境なのか？などいろいろな藤原さんより問いかけがあり、その後、参加者に「深海魚の姿をイメージ」してもらい、イメージした姿の『目』に注目！想像した目は、大きいのか、小さいのか、退化したのか？そして実際の深海の魚たちの映像を見せてくれました。目が完全には退化しないのは、発光する生きものがいるためということです。



そして深海の餌不足に話に移り、口が大きくなったり、胃袋が柔軟になったりする魚の紹介もありました。深海ではマリンスノーによる有機物の供給に頼っていますが、時に天から降るご馳走があり、それが「鯨」だそうです。

【海底に沈んだ鯨】

沈んだ鯨は2000年分の有機物に匹敵し、周りにできる群集は「鯨骨生物群集」と呼ばれるそうです。肉を食べる（腐肉食期）、次に骨を食べる生きものが集まる（骨浸食期）、さらに硫化水素が発生するがその毒をうまく使って生きる生物が現れる（化学合成期）、そして骨は基質になってそれを足場にする生物が集まる（懸濁物食期）と時と共に変化します。海底に沈んだクジラのストーリーは『くじらがしんだら』という絵本になり藤原さんが監修に関わっています。NHKと共同で小さなマッコウクジラを沈め、調査を行った話もありました。

【深海のトップ・プレデター】

トップ・プレデターとは、自分自身を捕食するもののいない生態系の頂点に立つ捕食性の動物で、生態系の多様性や機能をコントロールしたりしていることが分かってきました。では、深海のトップ・プレデターは何か？比較的調べやすい駿河湾で調べたところ、今まで記録の無かった魚が捕獲でき、「ヨコヅナイワシ」として新種記載したそうです。トップ・プレデターであるかを判断する窒素同位体比を調べたところ、深海性のサメよりも高い値であることが分かり、ヨコヅナイワシが駿河湾の深海におけるトップ・プレデターであると分かったそうです。しかし、駿河湾では分かってきたことが多いが、広い太平洋の深海では全く分かっていない。これから調べていくことはできるが、その前に地球環境の変化が進んでしまうと、もしかしたらこういった生きものが先に絶滅してしまうかもしれないと危惧していました。

【深海洞窟に挑む】

大東諸島周辺海域の深海洞窟をターゲットした研究プロジェクト「D-ARK」を立ち上げ、2024年2025年と調査を行っているそうです。深海洞窟の調査は初めてのことが多く、洞窟を調査できる道具を作り、海底の地図を作成してから調査を行います。その調査の中で新種として記載した「ウファガリアカサゴスナギンチャク」は刺激を与えると発光し、深海洞窟の中で発光生物が見つかったのは世界で初めてのことです。

【八丈島での調査】

また、一般社団法人トワイライト・オーシャン研究機構（RITO）を立ち上げ、八丈島近海の調査が始まりました。2月下旬に八丈島で初めての調査を行い、いろいろな生きものが採集できたとのこと。今後は八丈島から深海生物の新しい情報を発信していきたいということでした。（H.T）

八丈植物公園季節調査会の報告

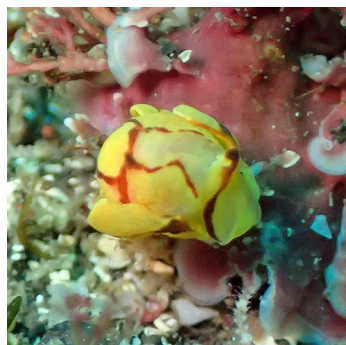
ももとは8日に行うはずでしたが、悪天候のため中止となったので、12日にスタッフ1名で季節調査を行い、シダ植物を含めて89種類の植物を観察しました。

風も弱く、陽が差していたので、気温の割に暖かく感じました。そのせいか、園内では鳥の声がにぎやかでした。中でもシチトウメジロはすぐ近くで虫を食べたり、ヤブツバキやストレチアの花の蜜を吸ったりと、可愛らしい姿をあちこちで見せてくれました。(M.K.)

八丈植物公園季節調査 2026年2月12日(木)、天気：晴れ時々くもり、気温：11.2℃ 調査者：0名 VC：1名

1	ヤブニッケイ	葉の虫コブ目立つ						
2	タコノキ							
3	オオタニワタリ							
4	ニオイウツギ	実鞘のみ残る						
5	ニオイバンマツリ	紫の新葉目立つ						
6	オオシマザクラ	まだ固い冬芽						
7	アオキ	花芽	37	セイヨウタンポポ	花	67	モンステラ	若い実
8	アオツツラフジ	黄葉目立つ	38	ソテツ	実残る	68	ヤツデ	若い実
9	アオノクマタケラン	実残る	39	ソメイヨシノ	冬芽	69	ヤブツバキ	蕾・花
10	アカビロウ	若い実	40	タイミンタチバナ	蕾・実残る	70	ルリゴクラクチョウカ	花
11	アシタバ	実	41	タコノキ	実			
12	アツバスマレ	蕾	42	タネツケバナ	花	シダ植物		
13	イワニガナ	花	43	タブノキ	冬芽	1	アマクサシダ	孢子囊
14	インドゴムノキ	実	44	ツメクサ	蕾	2	イシカグマ	
15	ウスベニニガナ	花・実	45	ツルグミ	若い実	3	ウチワゴケ	包膜目立つ
16	ウナズキヒメフヨウ	蕾・花	46	ツルソバ	花	4	オオイタチシダ	孢子囊
17	ウメ	花	47	ツツブキ	花・実	5	オオタニワタリ	孢子囊
18	ウラシマソウ	花	48	テイカカズラ	実鞘	6	オニヤブソテツ	
19	オオシマカンスゲ	花	49	ニラバラソ	葉	7	タチクラマゴケ	紅葉目立つ
20	オニタビラコ	花・実	50	ノジスミレ sp.	花	8	タチシノブ	
21	オランダミミナグサ	蕾	51	ハゼノキ	紅葉	9	タマシダ	
22	ガクアジサイ	蕾・実	52	ハチジョウアザミ	花・実	10	ナチシケシダ	孢子囊
23	キフゲットウ	実	53	ハチジョウキブシ	花芽	11	ノキシノブ	孢子囊
24	ギルタンサス	花	54	ハナイバナ	花	12	ハチジョウカナワラビ	孢子葉
25	コナスビ	花	55	ハマヒサカキ	若い実	13	ハチジョウシダ	
26	コハコベ	花	56	ハルノノゲシ	花	14	ハマハナヤスリ	
27	シェフレラ	若い実	57	ヒサカキ	蕾	15	ヒトツバ	孢子葉
28	シチトウスミレ	花	58	ヒナギキョウ	蕾・実	16	ヘゴ	
29	シマテンナンショウ	花	59	ヒメツバキ	実	17	ヘラシダ	孢子囊
30	シマモクセイ	実	60	ヒメムカシヨモギ	蕾	18	ホシダ	孢子囊
31	シラン	芽吹き	61	フウトウカズラ	実	19	ホラシノブ	孢子囊
32	スイカズラ	実残る	62	ブラシノキ	花のしべ残る	20	マツバラソ	
33	スイセン	花	63	マサキ	実	21	マメヅタ	孢子葉
34	ススキ sp.	実残る	64	ムラサキカタバミ	花			
35	スズメノカタビラ	花	65	モクレイシ	蕾			
36	ストレチア	花	66	モチノキ	蕾・花			

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、ウミウシの仲間「ソコドウミコチョウ」にスポットを当ててみたいと思います。



ソコドウミコチョウ *Gastropteran* sp.

ウミコチョウ科ヤマトウミコチョウ属。和名は初記録地の八丈島の底土に因んでつけられています。現在では南日本からインドネシアでも確認されているようです。

体長は6mmほどでとても小さく、半透明な体に細かい黄色い点がちりばめられています。体に暗褐色のラインが入るのが特徴。

夏の初め頃、砂の溜まった水底で見られます。(H.T)

2026
03ハチビジターセンター
プログラムカレンダー日付の下に書かれている時刻は、八丈島(神湊)の潮の満ち引きの時刻です。
また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
1 ガイドウォーク	2	3	4	5 啓蟄	6	7 ガイドウォーク
05:02 15:38 10:30 22:22	05:23 16:26 10:57 22:57	05:42 17:09 11:23 23:29	06:00 17:49 11:50 23:57	06:16 18:26 12:17	06:32 19:03 00:23 12:45	06:49 19:40 00:18 13:14
8 ガイドウォーク 植物公園季節調査会	9	10	11	12	13	14 ガイドウォーク
07:07 20:19 01:11 13:46	07:27 21:07 01:33 14:23	07:46 22:20 01:52 15:07	08:03 23:57 01:59 16:11	08:12 23:57 17:54	08:34 23:57 19:43	04:14 13:04 09:48 20:46
15 ガイドウォーク	16	17	18	19	20 春分 ガイドウォーク	21 ガイドウォーク
04:19 14:29 09:49 21:28	04:32 15:22 10:06 22:03	04:48 16:07 10:29 22:36	05:07 16:50 10:55 23:09	05:28 17:34 11:25 23:41	05:50 18:18 11:57	06:12 19:03 00:12 12:31
22 ガイドウォーク	23	24	25	26	27	28 ガイドウォーク 八文学講座 「蔓かごを編もう」
06:34 19:51 00:42 13:08	06:55 20:46 01:10 13:50	07:16 22:03 01:34 14:39	07:36 23:57 01:52 15:43	07:49 23:57 17:16	04:07 23:57 19:09	03:42 13:18 09:29 20:27
29 ガイドウォーク	30	31				
03:56 14:45 09:43 21:18	04:14 15:41 10:06 21:57	04:32 16:26 10:30 22:30				

この色の日は
ガイドウォークや
特別行事があります

イベントプログラム

植物公園季節調査会

植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化を一緒に感じましょう！
3/8 (13:30～ 約1時間半)
中学生以上 ビジターセンター集合・解散 参加費：無料 定員：10名八文学講座
「蔓かごを編もう」毎月行っている八文学講座。クズの蔓を使ってかごを編みます。
3/28 (13:30～ 約1時間半)
中学生以上 ビジターセンター集合・解散 参加費：無料 定員：10名

植物公園ガイドウォーク

解説員が植物公園内をご案内します。
毎週 土日祝日及び休日、(10:30～ 約1時間) だれでも参加できます。
ビジターセンター集合・解散 無料 定員：10名

ビデオプログラム

10:00～ 八丈・海・生きものたち
11:00～ おじゃりやれ 八丈島
14:00～ おじゃりやれ 八丈島
15:00～ おじゃりやれ 八丈島
16:00～ 八丈・海・生きものたち
当面の間は上記のみの上映になります

東京都八丈ビジターセンター 2026.3.1 第298号

開館時間 9:00～16:45 年中無休(入場無料)

〒100-1401

東京都八丈島八丈町大賀郷2843

電話：04996-2-4811 Fax：04996-2-4888

<https://www.tokyo-park.or.jp/park/hachijo/>

編集後記

講演会の中で、「深海は水深200mからなので、地球は『海』の惑星と言われているが、本当は地球は『深海』の惑星なんです」という話がありました。私たちの知らない深海の世界の話をまた聞きたいので、「もっと知りたい深海の世界」企画したいですね。(H.T)